



東京都港区芝罘町2の9 電話・東京434-7030 発行責任者 前川 功

日赤新労ニュース

綱 領

- われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて、われわれの権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
- われわれは、常に暴力と独裁を排し、自由にして明らかな民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
- われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

盛りあがる熱気の中

第2回 中央委員会

八月二十九・三十日 於・三重県二見浦真珠荘

五月中旬の赤城山頂における中央委員会に次ぐ日赤新労の本年度第二回中央委員会は、三重県支部職員組合のお借折りによって、日赤新労支部の名を知られた風光明媚な三重県二見浦、地方職員共済組合二見保養所「真珠荘」を会場に、八月二十九・三十日の二日わたって開催された。

日程は次のとおり。

- 一、開会のことば
- 二、資格審査と成立確認
- 三、議長を選出
- 四、書記の任命
- 五、執行委員長候補の挨拶
- 六、一般経過報告
- 七、審議
- 八、協議
- 九、閉会のことば

二十九日午後一時、日程のとおり、川出副委員長が起つて開会のことばを述べ、前川書記長から、中央委員十五名中十一名の出席による成立を確認した。

出席者は次のとおり。

○役員、吉原執行委員長・川出副委員長、前川書記長・千種会計・久保田、増村、松下各執行委員。

○中央委員、佐藤克己(仙台日赤)・早川清也(前橋日赤)・横山肇夫(浜松日赤)・前田庚子(中央病院)・山田正(名日赤)・村岸義昭(名日赤)・服部昭一(名日赤)・山崎謙(赤良支部)・定久正夫(鳥取日赤)・山本肇委員代理井手季男(唐津日赤)・鶴田孝子(長崎原爆)・山田、鳥取の各日赤単組から十余名の傍聴者があり、特に招待者として岡山日赤から二名の出席があった。

第一日

執行部一任の発言多数によつて、前川書記長から、従来からの慣習の出し度と、地方(第四ブロック)支部の夫々名を知られた風光明媚な三重県二見浦、地方職員共済組合二見保養所「真珠荘」を会場に、八月二十九・三十日の二日わたって開催された。

日程は次のとおり。

- 一、開会のことば
- 二、資格審査と成立確認
- 三、議長を選出
- 四、書記の任命
- 五、執行委員長候補の挨拶
- 六、一般経過報告
- 七、審議
- 八、協議
- 九、閉会のことば

二十九日午後一時、日程のとおり、川出副委員長が起つて開会のことばを述べ、前川書記長から、中央委員十五名中十一名の出席による成立を確認した。

出席者は次のとおり。

○役員、吉原執行委員長・川出副委員長、前川書記長・千種会計・久保田、増村、松下各執行委員。

○中央委員、佐藤克己(仙台日赤)・早川清也(前橋日赤)・横山肇夫(浜松日赤)・前田庚子(中央病院)・山田正(名日赤)・村岸義昭(名日赤)・服部昭一(名日赤)・山崎謙(赤良支部)・定久正夫(鳥取日赤)・山本肇委員代理井手季男(唐津日赤)・鶴田孝子(長崎原爆)・山田、鳥取の各日赤単組から十余名の傍聴者があり、特に招待者として岡山日赤から二名の出席があった。

今度こそは!! 全組織をあけて掛け声だけでない。公務員も同時率のときであること、肝に銘じて、各単組においても、強力果敢な運動を展開されたい。その他重要な問題が審議される今回の会であるので、各委員の活発な発言を望む。

前川書記長の一般経過報告

五月十五日・十六日、群馬県赤城山大沼荘で第一回中央委員会開催。

五月二十二日、連絡第三号送(中央委員会の決議による六・七労ベア実施不能施設長宛宣言文)。

五月二十五日、連絡第三号送(同交委員招集)。

五月二十九日、第一回団体交渉(夏期手当及び給与要綱運用について)。

五月三十日、連絡第五号送(同交二一、指合作成)。

六月一日、連絡第五号送(指合第四号送(同交開催方について))。

六月五日、連絡第五号送(臨時職員調査について)。

六月六日、給与専門会議(吉原増村氏出席)。

六月八日、新労ニュース第一九号送。

六月十日、連絡第三号送(給与手帳作成について)。

六月十二日、第五回労働協約小委員会(吉原、長田、前川、三木氏出席)。

六月十五日、連絡第五号送(労働協約について)。

六月二十日、婦人部設置について初会合(前橋日赤佐藤、足利日赤沢口、浜松日赤坂田、名日赤渡辺の四氏と執行部より吉原、川出、前川の三氏出席)。

六月二十二日、連絡第三号送(婦人部設置について)。

六月二十四日、鳥取日赤事務部長上京、吉原、前川両氏面接。

六月二十九日、組合規約加盟全単組宛送。

六月三十日、鳥取日赤定久、山本両氏来局、吉原、川出、前川氏と会談。

七月一日、医療労組連絡会議出席(前川氏)。

七月十日、新労ニュース第二〇号送。

七月十日、連絡第三号送(会費納入方について)。

七月十五日、連絡第三号送(新潟震災について)。

七月十六日、連絡第三号送(婦人部招集)。

七月二十七日、第六回労働協約小委員会(長田、前川、三木氏出席)。

七月三十日、益田日赤のスト権確立について照会。

七月三十一日、第三回執行委員会(同交合結果について)。

八月十日、給与手帳を加盟全単組宛送。

八月十五日、連絡第四号送(新潟地震被災者救済金処理について)。

八月二十九日、一回だけであつたのか?

吉原・本社の言い分は、夏期手当については本単組に権限はないから、単組で交渉すべきだ。としか権限がない、の一点張りであつた。これでは何回あつても同じことの繰り返しであるから一回だけであつた。

前川・賞与については各施設長に権限があるから、われわれは本単組の要求に近いものを盛り込ませるかにして食いつた。

久保田・本社はどのような通達を出すかについて、どうしては明示しない。われわれとしてはとにかく一律を多くするように繰り返して要求した。(同交の経緯についてくわしく説明)。

出席の各氏の自己紹介があつて、審議事項に入った。

本年度ベアスタブについて

議長・各ブロックからの問題についての意見を聞いた上で対策を練ることとしたらどうであろうか。

山田(第三ブロック) 国家公務員と同時に率一の上で、今度こそは、どうも国家公務員も同時率をモットーとして強力に経営者にあたる。

山崎(第四ブロック) 結論として同公と同時率。執行部と本社との交渉が決裂したら、全単組から本社に陳情して、それでもだめなら中労委に提訴する。というのではどうか。

早川・第一回中央委員会で決定した。要書書はどのくらい提出されたか?

吉原・八通ほどだ。決定したことを実行に移さないとどうしようもな。中央委員の出ている単組に要書を出さなかつた理由を訊きたい。

佐藤・目下案をまとめたところである。早速出すつもりである。前田・いろいろな事情でまだ出していないが、すぐ出すことにしたい。

定久・すぐ出す。井手・出した。服部・オプザバーとして出席の各位の発言を許したらどうか。山田・議決権はないが、発言だけは差支えないと思うが……。(全員賛成)

鶴田・要書などでは生ぬるいという単組の言い分だ。今度のベアはスト権確立までやる覚悟がなければならぬ。その上ではじめて中労委に提訴するべきである。

山田・最終的にはスト権の問題ともなるのだが、段階的に進めて行くべきであると思う。

前川・同交を早く開くことには決まらなければならない。交渉の方法等について具体的に決めた。交渉の方法等について具体的に決めた。交渉の方法等について具体的に決めた。

吉原・ベア交渉では各単組でスト前と強いところまでやらなければならぬと思う。しかし、どのような強力な方法を考へ出したとしても実行が伴わないのでは絵に描いた餅だ。要は、どうしようもない。要は、どうしようもない。要は、どうしようもない。

久保田・早急に単組交渉をして、その結果本部交渉をやる。さしあつた単組交渉をやることだ。村岸・単組交渉は絶対に必要だ。ベアはやらねばならぬ、というところまで施設長の考えを迫り込むことだ。



小崎(前執行委員長・山田日赤から出席)スト権まで持つて行く。早川・各単組で決定事項は必ず実行すること。臨時大会については賛成。

この点も考慮の上で協議された。村岸・財政の面がカンパをやつたらよいのではないか。カンパも組合員の意識昂揚の一助となると思うが……。

第二日

三十日午前八時半開会。第一日引続いて審議事項の第二、労働協約早急締結。前川書記長提案理由説明。労働協約は早急に締結しなければならぬので、労働協約締結小委員会、前責任者であつた水戸日赤の長田宏平氏に引続き責任者をお願いして、七月二十七日、第六回日赤小委員会を開催、お手元配付した最終案を得た。

三、組織強化拡大推進。川出副委員長提案理由説明。第一回中央委員会から今日まで特にオルグに出かけたところはなかつた。経過報告にもあつたように、鳥取日赤と益田日赤で本橋を確立したのは、夏期手当を中心とした方針等、全般的の問題を含めたたかいであつたことは、新労ニユースの第二十三号を見て頂ければおわかりかと思ふ。

千種、おれわれの準備(水戸)では、労働協約を結んだため実例がある。文字どおり労働協約は職場の憲章である。委員の各位に頭張つてもらつて一日も早く締結にまで持ち込んで欲しい。働く者の生活の向上、安定ということは、労働協約からうまれるのだから……。(全員賛成)

が届かなかつたものと思われ、再指令を願ひたい。吉原・強化の意味からも婦人部長の意見を聞きたいが、その経費はどうすればよいか。鶴田・単組全額負担。佐藤氏も賛成である。横山・今年度限り単組負担。早川・単組全額負担としても今年度限り。前田・旅費と会場費は本部負担として欲しい。山田・早急に開催するとすれば単組負担。

川出・さきほどおの婦人部長会議の経費問題であるが、本部として、今回は各単組負担にして、今後は各単組負担にして、これにて裁決をお願いしたい。これで裁決を願ひたい。(挙手八名、多数決をもって婦人部長会議経費全額単組負担と決定。)

井手・唐津には婦人部があるが報告書に載せているのは、書類が揃い検査技師を雇ひたいと思つて来て呉れたい。これで日赤の将来が憂へられる。増村・五月二十九日の夏期手当の団体交渉の折、給与問題についても申し入れた。その結果、協議会もつて是正して行きたいという事となつた。九月に入つたら協議会をやるとは、初任給の問題等はつきり決めたといふことであつた。それらについて要領な意見なりがあつたら、本部に連絡されたい。

情を訊きたい。(横山・早川・前田・山田・服部・定久・井手・鶴田・山崎の各委員からプロットの実情が述べられた) 吉原・今回は出席されなかつたが、静岡支部の土切中央委員からプロット内の群馬、橋木の支部に付けて新労加盟を説いた旨通知があつた。同氏は今後この二支部の加盟獲得に努力するとのことである。

決議文送付。新労では第二回中央委員会の決定にもつづいて決議文を、社長、各支部長、病院長、事務局長あてに送付した。決議文。日本赤十字社においては、かねて公務員に準ずる給与体系を敷きながら、過去数回に亘る人事院勧告によるベースアップに際し、われわれの切実なる要望にも拘らず、その都度、実施時期を引延ばしてきた。

川出・各プロットの中央委員は近接の未加盟組織に働きかけて新労の拡大に努められた。岡山、群馬、栃木、京都等には特に力を注いで欲しい。なお、組織部には川出、久保田、松下の部長が居るのだから、情勢次第で、この部長を大いに利用されることを望む。要請さえあれば、組織部は直ちに動くことをお伝えしておく。(全員了承)

一、七・九パーセントについて本部、単組とも団交を積み重ねあらゆる方法、手段を尽し、新労の命運をかけて、公務員と同時間率実施を勝ちとること。二、労働協約の早急締結について過去六回にわたる少委員会における未解決事項を団体交渉に持ち込み、早急締結を図ること。三、組織の強化拡大について、それぞれ地域的に新労未加盟施設の動向に注意を払い、必要に応じて本部と連絡をとり、期を逸せずオルグを行なうこと。四、その他。中央委員会選出について。中央委員を正式に決めてないプロックは、何等かの方法により中央委員を決定し本部に報告すること。暫定手当について。施設により現現程による支給額に疑問の点があるので、調査研究すること。年度制について。本社において実施中の定率制は、各施設にも影響している。新潟地で養老金について。新設本部において各単組から一〇〇円を被奨員組合員に送金したが、締切後岡山支部職員に、本部として個別に送金の手配をすることはない方針であること。給与手帳について。先般組合員各自に送付した給与手帳は、あらゆる給与問題の回答であつた。

第三回執行委員会。第三回執行委員会は、第二回中央委員会に先立ち、八月二十八日午後五時から、三重県二見町の真珠産地開かれた。出席者、吉原執行委員長、川出副委員長、前川書記長、千種会計、久保田、増村、松下各執行委員(兼松氏欠席)審議事項。プロファイル。日赤中央病院の収納室——このあまり大きくもない事務室で、日赤新労書記長前川功氏は、あの大きな体躯と大きな声で、医療費の取納から患者の対応と目のまわるような多忙の中でテキパキと仕事を処理している。だから、あんなにへんな取納事務がスムーズに運び進んでいくわけである。

川出・会費と庶務の所定以後の人はなら部長でも部長でも組合員になつてよい。課長になるのは一般的にアンペンダスとそれはその人の意思如何によるものとも思われるが……。佐藤・了承。川出・各中央委員からオルグの実情を訊きたい。

労使協議会。九月九日、本社において労働協約会を開催、新労から吉原、前川、増村、早川の四名が出席した。各単組には直ちに速報をもつて通報したが、本社側の意向を次に略記する。一、資格基準について。資格基準規定がありながら職務内容で格付が押しえられては、該当事業については所長長に申請すれば本社では承認する。頭打ちの問題についても上記の方法で処理できる。二、一般職が公務員ランクに比較して低いことは本社側でも矛盾を認めている。今後の交渉で改正したい。三、職務手当は今回の給与改定時に問題をとりあげて考慮する。四、初任給は過去において若し差を生じていたが現在の給与体系下では三乃乃至三等の地域差はあまりない(医療職)と。五、職名について(医療職)。昭和三十三年十月一日衛医第二八五号各支部長宛部長通知により公法上(国家試験)の有資格者は当然技術の扱いを受けるものとする。以上が協議会においての本社側の回答であつた。

前川書記長。あつて、書記長の責任たるや重且つ大である。この点、前川書記長は正に適切な所と言つたところ。ことをなすに当つてその理解力、努力、責任感、誠実、それらが認められて書記長に選出され、病院の熱狂的ファンで、これが負ける食事がまずいといふほど。先般二見の浦で開催された新労第二回中央委員会の席上、吉原執行委員長は、今月の七・九パーセント対しては生命をかけて完遂すると発言して全員を決意をうながしたが、新労にとつてまことに重大な秋である。このときに当り、われわれは前川書記長の活躍に期待するとともに大である。健康を祈つてやまない次第だ。(中央・小川)



前川書記長。あつて、書記長の責任たるや重且つ大である。この点、前川書記長は正に適切な所と言つたところ。ことをなすに当つてその理解力、努力、責任感、誠実、それらが認められて書記長に選出され、病院の熱狂的ファンで、これが負ける食事がまずいといふほど。先般二見の浦で開催された新労第二回中央委員会の席上、吉原執行委員長は、今月の七・九パーセント対しては生命をかけて完遂すると発言して全員を決意をうながしたが、新労にとつてまことに重大な秋である。このときに当り、われわれは前川書記長の活躍に期待するとともに大である。健康を祈つてやまない次第だ。(中央・小川)